



発行
浮田地区コミュニティ会議
電話&FAX
0198-42-1681

11月2日芸農まつり餅まき風景

タイトル画説明

朱色の実と黄葉のウメモドキ。秋の陽光を照り返すシナヒイラギの常緑の葉と茶味の赤い実。越冬するというキタキチョウがオレガノの葉の中の花に。
絵・文(実)

芸農まつりを 終えて

6年間実行委員長を務めて、今年第15回浮田地区芸農まつりを終了することができました。

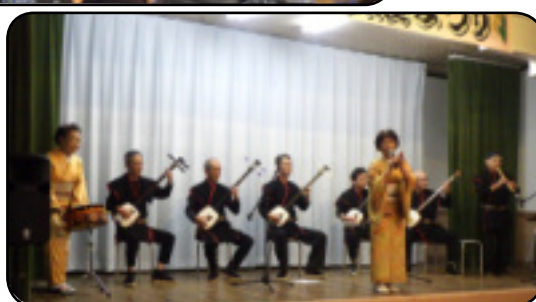
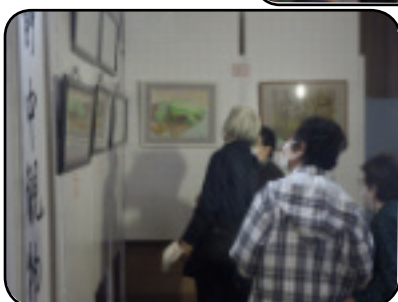
当日は、町のグラウンドゴルフやゲートボール大会と重なり、来客数は若干減少したような気がします。

しかしながら、演者、軽トラ市の皆さん、展示物を提供してくださった皆さんのおかげをもちまして、盛大に無事開催にこぎつけました。感謝感謝！

そのほかにも、スタッフ、事務局一丸となって進められたことは、今後、浮田地



区のコミュニティ活動の発展に期待が持てます。ワクワク！
「福もちまき抽選会」はいかがでしたでしょうか。変わった？景品(スコップ、座敷ほうき、望遠鏡など)が多数あたりました。中には困惑している方も見えましたが、餅まきはこんなに人気があるのでしょいか??
次回も期待しています。
実行委員長 千葉和弘



「蝦夷の赤い甕」えみしかめ (歴史講座)



10月16日、北上市立博物館(講師・杉本良氏)、12名の参加で行われ、最初に講師から赤彩球胴甕(せきさいきゅうどうかめ)の成立と、祈りの土器がなぜ蝦夷の集団結束、戦いの象徴となったのか説明がありました。

8世紀終わり頃から9世紀初めの頃、京政権は政権に従属しない蝦夷の征討を行います。(38年戦争)

また蝦夷も連合して北上川支流の和賀川を絶対防衛線に闘いました。

午後、江釣子古墳群に向かい、戦と甕の出土について説明があり、38年戦争の終わりとともに、この赤い甕は作られなくなったようです。

講座終了後、現地に再訪問した人がいたほどの人気講座でした。(辰)



「ニユースポーツ大会」

10月11日、浮田集会所講

堂でニユースポーツ大会が開催されました。今回紹介された種目はレクリエーション吹き矢とスカットボールの二種目で、年齢層も幅広く10名程の参加者を2組に



分けて競技を開始しました。吹き矢は私を含めて以前にやったことのある方もいましたが、吹く強さや角度、距離感など難しいもので、思うように的へ当てること

が出来ませんでした。

スカットボールは初めてやりましたが、マットの凸凹や台の跳ね返り具合などで狙った得点穴に入れることが出来ず、スカットとした気分にはなりませんでした。楽しく体を動かすという気持ちが大事と思いました。

(賢)



写経・写仏教室

浮田地区コミュニティ会議・生涯学習部「浮田塾」が8月27日、9月10日に行われました。

写経を中心に經典の手本に向かい合うこと2時間。回を重ねるごとに上達する皆さん。講師の伊藤恵美さん(中内常泉寺)の指導の下で、和紙に向かい書き上げると、集中力とリラクセーション効果が得られたとともに、達成感がありました。

(二三)



民生 児 童 委 員 介 紹

日下一也さん



担当地区名は、石宮・浮田で再任です。
今期で6期になります。主な活動は毎月の市社会福祉協議会、東和包括支援センターとの定例会での情報をもとに地域内の高齢者の一人暮らし、高齢者世帯の見守活動、安心カルテの作成を行っております。カルテ作成には協力お願いします。

平野 富貴子さん



毒沢在住の平野と申します。新人です。
担当地区は、中内・毒沢です。
私は48年間余り、幼児保育に携わってきました。今回お引き受けしたものの不安でしかありませんが、今までの経験を糧に、精一杯務めさせていただきますと思います。
どうぞよろしくお願い致します。

毒沢の活動

11月9日、毒沢公民館で「明日の毒沢を考える会」が二部構成で開催されました。このイベントは、地区の老若男女が一堂に会し「色んなことを話そう」と企画されたもので、今回で8回目となります。

午前の部は「スイーツ対決」合格か不合格かと銘打って、三大コンビニのスイーツを味わうものです。子供さんからお年寄りまで約30人が集まり「判定」が行われました。今回も不合格はありませんでした。夕方は岩手県産のホップを使ったビールと地元の日本酒を味わいながら、これからの毒沢について熱い意見交換が行われました。
(浩)



リレー エッセー

「あれ??」

私は、今年からウォーキングを始めました。なぜ始めたかといいますと、健康診断で、中性脂肪・血圧が高め、体重も73kgと若い頃より10kgも増えてしまい、総合支所の健康づくり係から指導を受けたからです。半年経っても体重は減りませんでしたが、8カ月経ってから少しずつ減り、現在は68kgとなっております。毎日続けることは大変ですが、今後も続けていきます。
ただ、10月の初め頃、石持の神社の草っぱらを歩いていて、黒いかたまりを目撃。なおかつ、グルルと唸ったのか威嚇したのか、その声にビビリ後退りました。その後に、ガツンと角と角がぶつかる音がしたので、鹿だったんだと胸を撫で下ろし、あれでなくて良かったと思います。
(宮田 平野和男)

ゆるゆると

カントリーヘッジ
(羊の生垣)

毒沢に移住する前は住田町の山間、沢沿いに11軒ある集落の1軒に暮らし、家から歩いて5分ほどの沢向かいの草地に柵を廻らし羊4頭放していた。
柵の向こうは植林の杉山で、ある日柵のすぐ外側に母子クマが：沢のこちら側にいた私は狼狽え、草地の真向かいに暮らす泰子さんに助けを求めた。
騒ぐな。大丈夫だ。蟻の巣を見に来ただけだと言われた。道路を横切るクマや山の斜面にいるクマを見たことはあったけれど、いずれも私は車の中。生身で最も至近距離で出たクマ。山間に50年暮らす泰子さんの言葉に落ち着きをもたう。
ツキノワグマの日常の暮らし、季節による暮らしを知らなかった私、東和野鳥の会主催の講演会で佐藤嘉宏さんの30年にわたる観察と記録によって、自然の中で生きているクマが見えてきた。クマがいる自然豊かな里山に私も暮らしていることを心におき、クマに遭遇しない工夫が日常に。
(山本 実紀)

老若男女が集う

11月7日午後6時から浮田振興センターで市政懇談会が開催されました。会場には21名の参加があり、市からも八重樫副市長をはじめ14名の出席をいただきました。

懇談のテーマは三つ設定され、最初のテーマである「指定避難所の在り方」について、中内の千葉区長が、指定避難所になっている浮田振興センターの現状とその使い難さを訴えました。市からは、一時的に中内

や毒沢の公民館等を指定する方法もあることが話されました。ただし公民館のトイレ水洗化については、費用面で地元負担もあるので、今後の検討課題となりました。

次に、浮田の小菅区長が市道の草刈り作業について、作業をする地元の方々の「高齢化に伴う作業の軽減化」を問いました。

今の刈り巾約一メートルについて、現状を考慮して狭くすることについて、市担当者との協議して欲しいとの回答でした。また、空き家問題についても、市と意見交換が行われ、所有者不明家屋等の把握について、地元と市と協力して進めていきたいとのことでした。

最後に、毒沢の千田区長が市の任命する各種委員の必要性について伺いました。様々な委員が委嘱されるにあたって区長にその推薦が要請されるが、どのような活動をしているのか分からないということで、本当

に必要な委員なのか疑問を感じるというものです。

市からは委員の任命の経緯や現在の活動の内容が報告されましたが、地元にはなかなか浸透していない感じでした。

広報等に活動の内容を掲

事務局だより「遊報」

○各公民館へ今年度実施した補助事業を紹介します。

中内公民館・椅子ラック

島公民館・座敷用椅子

高屋公民館・座敷用椅子

下浮田公民館・LED照明

太田目公民館・LED照明

それぞれに補助しました。

○12月1日から今年も「輝け！オラホの公民館大賞」と銘打った各公民館のイルミネーションによる飾り付けが始まります。昨年からは公民館だけではなく個人での飾り付けも目を楽しま

載するなどの周知が必要ではないかと要望していただきました。

このほかに会場内からの意見・質問等はなく、予定時間で終了となりました。

(浩)

せてくれています。今年も公民館巡りを楽しみにしています。なお、審査会は12月9日を予定しております。

(輝)



編集後記

今年の夏は記録的な猛暑が続き、日々の暮らしにもさまざまな影響がありました。熊の出没も例年になく多く、注意喚起の放送が頻繁に流れるなど、緊張感のある日々でした。そんな中、娘と一緒に「竹灯り」作りに挑戦し、夕暮れに灯る柔らかな光に心癒される時間を過ごしました。自然の厳しさと向き合いながらも、穏やかなひとときを見つけたい夏でした。

(郁)

編集委員長

千田 浩志(毒沢)

編集長

山本 実紀(毒沢)

編集委員

山口 友恵(宮田)

千葉 三恵(中内)

多田 辰雄(上浮田)

小田島賢志(下浮田)

渡辺 郁美(中内)

竹田美由紀(宮田)

題字

千葉 稔(下浮田)

事務局

藤井 輝雄(中内)

小田島多賀子(下浮田)